

宮城県への支援状況

国内外からの多大なる温かいご支援に支えられて、宮城は復興への歩みを進めています。いただいたご支援に改めて感謝申し上げますとともに、ここではその一端をご紹介します。



東日本大震災からの復興復興のため、多くのボランティアの方々にご支援をいただきました。本当にありがとうございます。
震災から2年が経過し、ボランティア活動の内容も災害復旧的活動から被災者の復興・自立に向けての生活支援、見守りや相談、地域コミュニティの再生などに変化しており、ボランティアを含めた支援者側も被災者の自立意識を視野に入れた支援活動が必要とされています。
ボランティア活動を希望される方は、活動時間や申込方法、受け入れの条件などを下記の各センターで事前にご確認ください。

活動ボランティア延べ人数

57万126人 (H23.3.12 ~ H25.2.28)

他都道府県などからの人的支援数

宮城県 / 515人 (H25.2.1 現在)

市町村 / 760人 (H25.2.1 現在)

寄附金 県内の災害復旧および復興事業の財源のために活用させていただいております。

11,589件 281億5,304万4,000円 (H25.2.28 現在)

義援金 被災された方々に対する生活支援のために活用させていただいております。

・県の受付状況

18万9,898件 257億8,932万6,740円 (H25.2.28 現在)

・政府および義援金受付団体からの配分状況

1,784億7,601万3,730円 (H25.2.28 現在)

東日本大震災みやぎこども育英募金

東日本大震災による震災孤児などのために活用させていただいております。

6,603件 54億1,343万7,731円 (H25.2.28 現在)

義援金、寄附金の取扱いについて

詳しくは <http://www.pref.miyagi.jp/site/ej-earthquake/kihu.html>

ほかにも物心両面で本当にたくさんのさまざまなご支援をいただきました。今なお被災地製品の購入やチャリティーイベント、県外避難者へのご支援など、さまざまな形でご支援いただいておりますことに心より御礼申し上げます。

この記事は宮城県復興応援ブログ「ココロプレス」から抜粋しました。内容や表現は取材当時のものです。詳しくは <http://kokoropress.blogspot.com/>

2012年11月17日 土曜日

東北コットンプロジェクト



津波被害によって稲作ができなくなっている農地に綿を植えることで農地の再生を目指す「東北コットンプロジェクト」。農家、企業、消費者が一体となって継続的な復興支援をしていく活動となっています。この日は綿花収穫祭が行われ、地元の中学生が参加していました。

南吉成中学校の皆さん



2012年6月25日 月曜日

農地再生ボランティア「ReRoots」



仙台市若林区で震災で避難所に身を寄せながら自ら炊き出しや物資の配給などを手伝った学生たちが中心になって結成した震災復興・地域支援サークル ReRoots (リルーツ)。「ボランティアをしていることに自己満足してはいないか?」こんな問いを自らに課しながら、活動に取り組んでいます。

2013年2月10日 日曜日

ちょこっとボランティアで出会った浜



SNS で集まった人々が炊き出しイベントのボランティアとして女川と石巻の応急仮設住宅に集まりました。

命名されたのが「ちょこっとボランティア」。ミュージシャン、漫才師、カウンセラー、そして地元の人々のために活動している人と、さまざまでした。

2012年8月28日 火曜日

困っている人をあまねく法で照らす



「法テラス（日本司法支援センター）山元」。東日本大震災の被災地支援のための拠点として2011年10月に業務を始めていた「法テラス南三陸」に続き、同

「とにかく気軽に来てみてください」と、利用を呼び掛けていました。県内では法テラス宮城（仙台市）や法テラス東松島でも活動を行っています。

年12月、ここ山元町にも開所されました。

「法テラス山元」の鈴木健太郎さんと小泉にさん

2012年8月27日 月曜日

復興の情報発信の頼もしい味方、情報レンジャー



2012年3月からスタートした、民学官が協同で被災地から震災復興の情報を発信する試み「助けあいジャパン情報レンジャー@宮城」。動画中心の取材した情報は、Web サイトで公開しており、被災地の生の声を聞き、臨場感ある風景を見ることが出来ます。この日は共同体の一翼、東北学院大学の災害ボランティアステーションの取り組みを取材していました。

情報レンジャーの皆さん



2012年6月27日 水曜日

自分で自分の幸せをつかんでほしい～あしなが育英会～



遺児支援に本格的に取り組むため、地震発生から1カ月後には仙台市若林区に東北事務所を開設した「あしなが育英会」。現在、被災した子どもたちのケアに本格的に取り組むためにレインボーハウスの建設準備中です。

東北事務所の林田吉司さん

2012年11月3日 土曜日

失われた子どもたちの遊び場を再び!



東日本大震災により被災地の子どもたちの遊び場の多くが失われました。そんな子どもたちに「たくさん遊んで笑顔になってほしい」との思いから、プレイグラウンド・オブ・ホープが、遊具を設置しました。世界中の方々の思いが伝わっています。



代表のマイケル・アナップさん

2012年11月17日 土曜日

「新宿組」ボランティア随記

東京都新宿区のまちづくりグループのボランティアツアー。夜行バスからマイクロバスに乗り換えた参加メンバーは、津波に遭った七ヶ浜町の耕作地の現状視察、東松島市の植栽活動、石巻市の養殖貝殻の整理と2日間フル活動でした。



2013年1月25日 金曜日

被災者と地域住民との交流の場

仙台市で民間賃貸の「みなし仮設住宅」に住んでいる被災者と地域住民との交流の場「ぶらっとほーむ木町」。産直野菜の販売や定期的に教室を開催するようになってから地域に住んでいる多くの方に利用してもらえるようになりました。



2012年12月15日 土曜日

被災地の地域づくりを支援する「復興応援隊」



地域のイベントを支援する復興応援隊員の畑山修賢さん
「復興応援隊」とは、被災地の地域づくりを目的とした住民主体の活動を支援する人たちのこと。県が市町村や関係団体と連携して、内外から人材を募り結成し、県内8カ所で活動しています。「何もしなければ現状維持が衰退しかない。何かしたら下手こくか、成功するかどちらかだ」。印象に残るこの言葉は、隊員の大森さんが地元の人によく言う言葉だそうです。

復興応援隊員の大森圭さん 堀越千世さん

